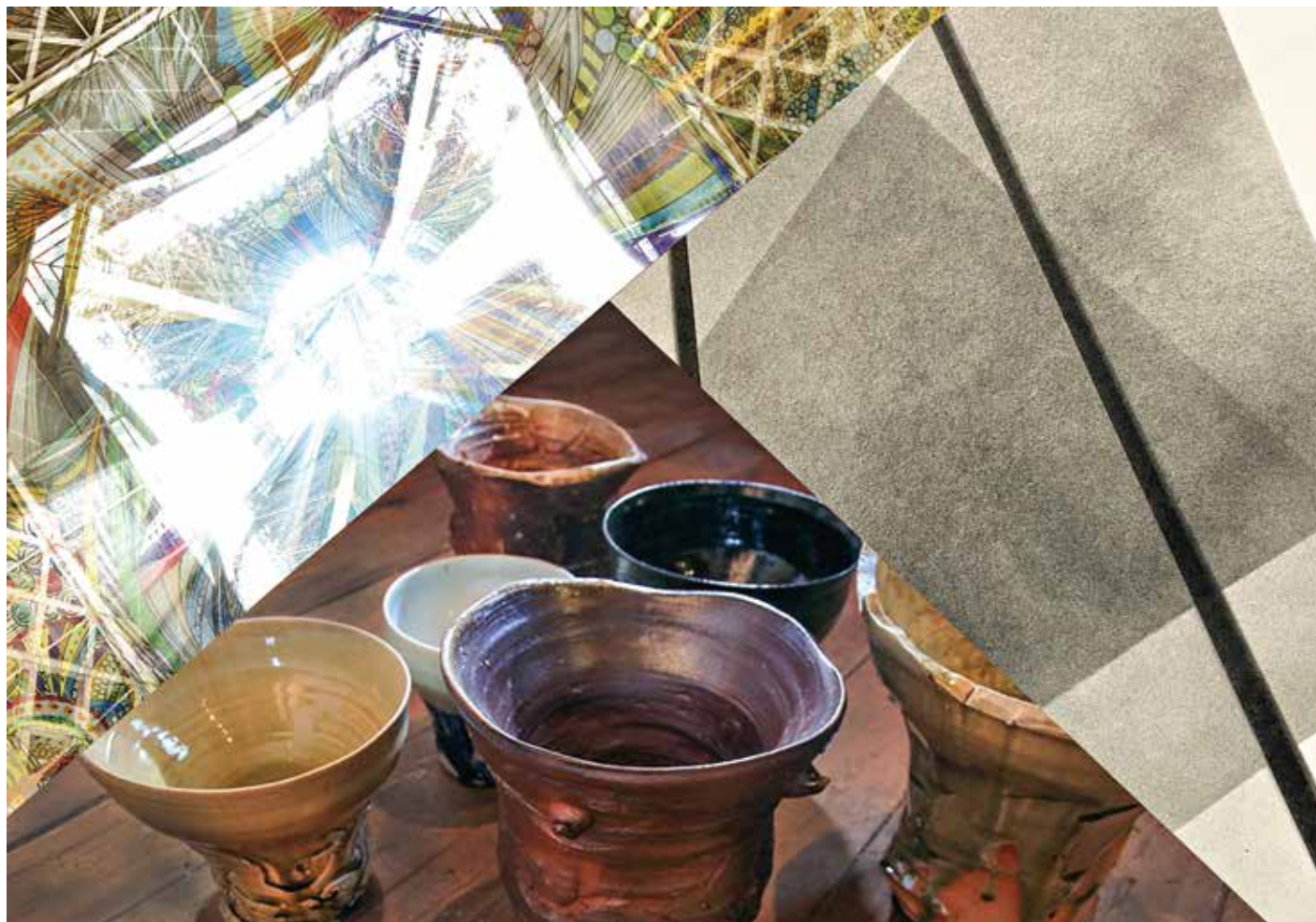




森のアート展 Vol.23

森の
アート展

Expose Multiple Dimensions

多次元を露わにする

Artist unit-NAGI 展

2025年7月15日[火]ー9月15日[月・祝]

開館時間：午前9時30分～午後5時

休館日：月曜日（7月21日、8月11日、9月15日は開館）

主催：豊田市民芸館

後援：公益財団法人豊田市文化振興財団

会場：豊田市本多記念民芸の森（田舎家・旧海老名三平宅・松近亭・管理棟和室・屋外）

※旧海老名三平宅は屋根葺き替え工事のため、7月末から展示予定

観覧料：無料

Artist unit- NAGI／青山禮土と神啓子によるアーティストユニット。2007年結成。

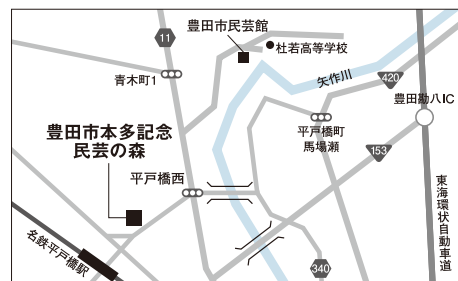
2011年、瀬戸市から、豊田市小原地区に工房を移転。

陶と和紙とデジタルテクノロジーをメディアに、制作に用いる原料のほとんどを、近隣の自然から採集するか、自ら栽培して、作品を制作している。

豊田市本多記念 民芸の森

〒470-0331 愛知県豊田市平戸橋町石平60-1 TEL:0565-46-0001

<https://www.mingeikan.toyota.aichi.jp/mingeinomori/>



〈電車〉名鉄三河線平戸橋駅より徒歩約5分

〈お車〉（名古屋方面から）猿投グリーンロード・枝下ICから約10分

（多治見・岡崎方面から）東海環状自動車道・豊田勘八から約10分

関連事業

■アーティストトーク ●内容：Artist unit-NAGIが展示作品についてお話しします。 ●日時：8月23日（土）午後2時から（40分程度） ●場所：田舎家 ●定員：15名程度 ●申込み：不要 ●参加無料

■ 展覧会コンセプト

Expose Multiple Dimensions は日本語で“多次元を露わにする”という意味です。現在、数学や物理学の分野では、世界を表すために“虚数”を使って数式を表現するのが常識になっています。(虚数=imaginary number 文字通り想像による数) この世界の事象は虚数を使わなければ説明が付きません。世界は謎に包まれています。とくに最近の先端技術としては、量子力学の応用がありますが、これも、なぜその様な事象が起こるのか、まだ解明されてはいません。日本では、古来から目には見えない事象や感覚を尊び作りだされたと感じる事ができる芸術作品が多数見受けられます。私たちは先人が築き人類に大きな変革をもたらしてきた、陶、紙というメディア、そして今後の世界を創造する上で欠かせない未知のニューテクノロジー(デジタル、ブロックチェーン、AIなど)と真摯に向き合い試行錯誤しながら、芸術を通して、目には見えない事象や感覚の核心を現代的な感覚で表現することを一貫して行ってきました。

その意図は、未来に対する新たなビジョンを観る者の意識の中に誘発することです。

(作家によるステートメント)

■ 豊田市本多記念民芸の森とは

豊田市名誉市民・本多静雄の邸宅のあった場所です。本多静雄は、内閣技術院を退官後に郷里の豊田市に戻り、昭和21年(1946)平戸橋町に居を構えました。本多はこの場所を拠点に実業家として活躍する一方、精力的に古陶磁の研究や民芸品の収集に取り組みました。この場所は、平成5年に民芸普及のため豊田市に寄贈され、その後、敷地・建物を整備して平成28年4月に「民芸の森」として一般公開を始めました。令和6年4月からは、本多静雄が収集した資料を民芸館の「さなげ古窯本多記念館」から集約し、「本多記念民芸の森」と名称を変更。現在、駐車場を含めた民芸の森の敷地は1万4千㎡で、この広大な敷地の中には様々な建物とモニュメントが点在しています。



■ 豊田市名誉市民 本多静雄

本多静雄は、1898年豊田市生まれ。電気通信事業と科学技術の向上に献身するとともに、古陶磁器の研究に取り組み、猿投窯を発見。民藝運動の創始者柳宗悦との出会いをきっかけに民藝運動に参加。名古屋民藝協会会長や日本民藝協会役員を務め、豊田市民芸館の設立に貢献、多くの民芸品を収集し、豊田市民芸館に寄贈する。貴重な資料や出土品の収集、研究をはじめ、郷土文化の発展に貢献した功績により、1977年に豊田市名誉市民となる。1987年杉本美術館の初代館長に就任。1999年102歳で永眠。



森の
アート展